

令和4年度 入学式式辞

全世界にわたる新型コロナウイルス感染の拡大は二年前からの予想を越え、今もなお、変異を繰り返すウイルスに対して対応を余儀なくされながらも、私たちは明るい未来に向かって生きていこうとしています。そのような中でも、季節の移り変わりはいつも通り訪れ今日の日を迎えました。

本日は学校法人翔英学園米子北高等学校の入学式を挙げるにあたり、ご多用の中、振興会副会長 馬場 東美恵様をはじめ、保護者の皆様のご臨席を賜り、希望に満ちた新入生たちを迎えることができましたことに、私たち教職員一同は感謝すると同時に、皆様からの信頼に応えるべく覚悟を心に刻んでおります。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、高等学校二〇四名看護専攻科二九名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校は創立六十五年目を迎え、卒業生が二万三千人を超える伝統ある歴史を築き上げた学校です。建学の精神である「基本的生活習慣の育成を通して、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する」を掲げて、時代の変化にも適応していきながら、進化していく教育を行っています。

法律により、成年年齢が一八歳に引き下げられたことにより、ここにいる看護専攻科の皆さんは四月より成年となり、看護師へと続く坂道の前に立っています。また、新入生の皆さんは卒業を迎える時には成年となります。つまり、本校での三年間は成年となるまでの完成期と考え、学んで欲しいと思います。

ここで、新入生の皆さんに今年度の教育目標についてお話しします。

『【input】【thinking】【output】《reflection》四つの行動で、対話力の向上・学習習慣の確立をはかる。』です。対話力の向上は社会で生きる力を身につけるためであり、学習習慣の確立は今後の人生においても学びに向かう力を身につけるためであります。

【input】すなわち聞く力・読む力、そして気づく力であり、正確に情報を得ることが大切です。

【thinking】すなわち考える力であり、相手を理解すること、粘り強く取り組むことが必要です。

【output】すなわち伝える力であり、正しく相手に伝えることが大切です。この三つに加えて、《reflection》すなわち振り返りを連動させることで目標の達成、定着につながると考えます。この目標のもと、学校生活で行う、授業、学校行事、部活動を通して学び続けて欲しいと願っています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。義務教育九年間を終えた子供たちは未熟な部分もある一方で、まだまだ成長していける未知の可能性を持っています。子供たちへの教育は我々大人の使命であり、保護者と学校が協力して大人の役割を果たしていくことで、より一層、子供たちの成長が期待されると考えます。この実現のために保護者の皆様にお願ひがあります。親である以上、「親目線」で見ることが当然ですが、大事なときには「大人目線」で子供たちへの教育を私ども学校と力を合わせて頂きたいと思ひます。何卒宜しくお願ひします。

最後になりますが、新入生の皆さん、明日から始まる学校生活は感染予防対策を講じながら行います。少し前まで「当たり前」であったことがそうでなくなり、新しい環境の中で「新しい当たり前」を受け入れていかなければなりません。その不安を吹き消す為が一番大切な事、それは誰もが相手を大切にし、優しくすることです。このことをinputして、米子北高校の生活をスタートしてくれることを祈念し、式辞と致します。

令和4年4月7日

学校法人翔英学園 米子北高等学校

校長 吉川隆司